

博 修 士 会 会 報

Alumni Bulletin For K.U.Masters and Doctors

2023年7月1日発行

▲予科校舎（以文館の場所に1922年竣工）



ごあいさつ

関西大学博修士会会長 北嶋 弘一

関西大学博修士会は、1952(昭和27)年に設立され、昨年創立70年目を迎えることができました。会員の皆様には、コロナ禍がひとまず収まった今日においてそれぞれご活躍のことと拝察申し上げますとともに、本会の活動に対しましては心温まるご助言や特別協力金のご寄付など数々のご支援ならびにご協力を賜りまして心より感謝申し上げます。

昨年、創立70周年にあたり、関西大学大学院の益々の繁栄を願って各研究科の相互交流、博修士会との親睦ネットワークの構築ならびに現役院生への支援など校友関係の一層の強化に取り組みしました。現役院生との交流および支援の一つとして、関西大学大学院研究科の大空に虹色の橋を架ける「院生選抜ポスター発表コンクール」を企画して、関西大学院生協議会と共催で実施しました。その虹色の橋は無彩色の部分も存在しましたが、本年も継続して開催して完璧な虹色に輝くことを心から願っております。

大学院創立以来これまでの修了者および学位取得者の総数は24,800名を超え、校友会(約50万名)の中においても大所帯の同窓会組織として発展を遂げております。今日の関西大学大学院は、法学、文学、経済学、商学、社会学、総合情報学、理工学、外国語教育学、心理学、社会安全、東アジア文化、ガバナンス、人間健康の13研究科博士課程前期課程および同後期課程と人務、会計の2専門職学位課程の計15研究科を擁する我が国屈指の大学院に発展、充実しております。

去る3月22日に行われました学位記授与式は、ここ数年新型コロナウイルス感染症拡大防止のために各研究科に分散して全体の式典をリモートで中継して実施されて来ましたが、よう

く従来通りBIGホールにおいて挙行されました。600名の修士と69名の専門職を合せた669名の修了生および44名の博士の計713名を本会の新たなメンバーとして迎えるとともに、昨年9月期の学位記授与式では21名の修士と8名の専門職の計29名の修了生および15名の博士を迎えました。さらに、4月3日に実施された入学式も全研究科揃って中央体育館で開催されましたが、15研究科853名および昨年の秋学期入学生25名を加えた878名のフレッシュな院生会員を迎え、母校関西大学の学術研究発展の中核としての一翼を担っていただくことを大いに期待するものであります。

来る9月30日(土)に関西大学博修士会の総会・学術講演会を下記の通り開催致します。総会後の学術講演会では、現役学生時代から起業し、現在は企業の代表取締役社長として活躍されておられる本学卒業生(1986年法学部卒)の永尾俊一氏を講師にお迎えして、「ピンチをチャンスへ!~いもたこなんさんによるワクワク未来づくり~」と題して千里山キャンパス第2学舎においてご講演いただきます。永尾氏は、関西大学の理念である「学の実化」を提唱された山岡順太郎に因んで設けられた「山岡塾」の副塾長として学生の支援にあたっていただいております。また、その午後からは昨年に引き続き院生協議会と共催で「院生合同学術研究ポスター発表大会2023」も開催致します。会員の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症の影響が未だ残る中ではありますが、万障お繰り合わせの上是非ともご出席いただき、また久しぶりに開催する懇親会において親しく懇談、さらに現役院生達を激励していただきますよう心よりお待ち申し上げます。

2023年度 総会・講演会・懇親会のご案内

- 日 時:** 2023年9月30日(土) 9:30より受付開始
場 所: 関西大学千里山キャンパス、第2学舎2号館5階:C507教室
内 容: **第1部: 総 会** 10:00~11:00 C507教室
第2部: 学術講演会 11:10~12:10 C507教室
 演 題: 「ピンチをチャンスへ!~いもたこなんさんによるワクワク未来づくり~(仮題)」
 講 師: 永尾 俊一(ながお としかず)氏
 (白ハト食品工業(株) 代表)
第3部: 懇親会(ランチパーティ) 12:20~13:20 C501
 (コロナ感染症対策のため中止することがあります)

総会・講演会参加者: 会員+会員の紹介者に限定
 (事前申込制: 郵便振替とする)

会 費: 会員と同伴者は5,000円、院生会員は無料
 (e-mail・QRコードで申込)

お願い: ご出席の方は、**9月16日(土)** までに、事前に郵便振替でお申し込み下さい。なお、総会・講演会・懇親会でのマスク着用はご自身でご判断ください。

- 郵便振替: 00900-2-68733
 関西大学博修士会:
 通信欄に「総会費」など
 ご記入下さい。

- 問合せ先: 博修士会総務部
 FAX: 075-331-6647

博修士会総務部 宛
 e-mail: kandaimd@muse.ocn.ne.jp
 (総務部: 中原 宛)

- はがき: 〒610-1102
 京都市西京区御陵大枝山町6-14-6
 博修士会総務部長: 中原住雄



白ハト食品工業(株) 代表
 永尾 俊一 氏



総会・講演会参加申込用

総会・講演会のライブ中継に関するご案内

総会・講演会の模様をご自宅等でご視聴いただけるよう、9月30日(土)10時よりインターネット配信によるライブ中継を行います。ネットでご参加をご希望の場合も、事前登録が必要となりますので、e-mail又はQRコードをご利用の上、9月16日(土)までにお手続きをお願いします。

会員からのメッセージ

学びの時間



大塚 理加
(2023 博 社会安全研究科)

本学の博士課程へ入学した2020年は、ちょうどコロナ禍が始まった年でした。東京から関西に伺うのがはばかれる時期でもあり、東京在住の私は入学式等への参加ができませんでした。また、その後の授業についても、主にオンラインとなりました。そのような状況でも、先生方や大学職員の方々に細やかなご配慮をいただき、特に不自由さを感じることはなく、学生生活を送ることができました。また、共に学ぶ友人にも恵まれ、社会人生活のみでは得難い、多くの経験をさせていただきました。3月に行われた学位記授与式では、受領者ひとりひとりが前田学長から学位記を受け取ることができ、各人の晴れやかな笑顔と共に、3年間のコロナ禍の終焉を感じました。

私は、高齢者の防災・減災の対策をテーマに博士論文をまとめました。この論文の執筆過程は、これまでの自分の研究と向き合うとともに、今後の研究について考えていく貴重な時間となりました。また、私の研究は、質問紙調査やインタビュー調査を分析する手法が主であり、これらの調査を実施するためには、調査対象者のみならず、関係する多くの方々からのご協力が必要となります。論文をまとめていく過程で、調査にご協力いただいた多くの方々のお顔が浮かんでまいりました。これらの方々には感謝するとともに、その結果を博士論文としてまとめられたことで、皆様のお気持ちにも少しはこたえられたのではないかと感じております。

私は、主に高齢者福祉の分野での研究に従事してまいりましたが、東日本大震災をきっかけに高齢者と災害についてのテーマでの研究を始めました。その中で、災害についての学術的な知識の不足を感じ、災害研究についての学びを深めたいと考え、社会安全研究

科 減災政策研究室の永松先生のもとで学ばせていただくこととなりました。また、本学における社会人奨学金の制度は、博士課程進学を決意を後押ししてくれました。本制度による支援により、経済的な不安が軽減されました。学費の捻出に不安がある社会人学生にとっては、とてもありがたい制度でした。

博士号をいただいたことは、今後の人生において、とても励みになります。そして、学位取得について、多くの方々のご支援、ご協力をいただいたことも、私の人生における宝物となりました。コロナ禍での学びを支えてくださいました社会安全研究科の先生方や職員の方々、そして大学院の友人、職場の同僚には、深く感謝いたします。特に主査の永松先生には、このような貴重な機会を与えていただいたこと、ご助言や励ましをいただいたことに深謝いたします。

本学での3年間では、真摯に学問と向き合うことができました。巷で言われている、即効性のあるリカレント教育とは一線を画す、深い学びを得られたと感じております。今後は、本学での多くの学びを活かし、災害時の高齢者の減災に資する研究を続けていきたいと考えています。諸先生方には、今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

夢を叶えた6年間



大下 眞穂
(2023 修 心理学研究科)

心理学を学びたい。これは、中学生の頃からの私の夢でした。この夢を叶えるため、関西大学社会学部社会学科心理学専攻に入学し、卒業後、関西大学大学院心理学研究科心理学専攻に進学いたしました。仮説を立て、検証する。その中で新たな発見がある。大学院への進学を決めた理由は、学部の4年間でこの喜びに魅了されたからでもありました。

大学院では、学部からの研究テーマである、完全性

を自己に求める自己志向的完全主義と精神的健康の関連について研究を行ってまいりました。ストレス社会と呼ばれる現代社会では、気分障害の総患者数が増加傾向にあります。そのような中で、全ての人々が自分らしく心身ともに健康でいることは重要であり、達成すべき目標でもあります。そうしたことの実現に少しでも寄与することが研究に携わる者の使命であると考え、研鑽を積んでまいりました。

今、こうして振り返ってみると、大学院生として過ごした2年間は、コロナ禍の影響もあり、決して平坦とは言えない道のりであったと思います。最初に直面した壁は、調査に協力していただける方を募ることでした。対面での授業が少なくなったことで、直接お会いして調査を依頼することが容易でなくなり、難航を余儀なくされました。さらに、初めて経験した学会発表は、オンラインによる開催となり、頂戴した質問に対して文字だけで返答することの不自由さに悩むことがありました。それでも、多くのご助言、ご助力をいただくことで、研究を進めることができ、自身の研究に興味を持っていただけることの嬉しさや、様々な立場の方々と議論することの楽しさを知るとともに、研究の幅が広がり、奥行きが深まっていくことを実感いたしました。

また、大学院の授業では、これまで以上に発表の機会をいただくことが多く、それを通じて、物事を考え、理解し、それをわかりやすく伝える力を養うことができました。さらに、認知・生理心理学、社会・産業心理学、発達・教育心理学、健康・人格心理学、計量・方法心理学の5領域をもとにした包括的な学びは、自身の研究を多角的に捉えることにつながり、これは研究以外の場においても役立つものとなりました。

このように困難があったものの、それを乗り越え、中学生の頃からの夢を叶えるだけでなく、社会で応用可能な技術や技能を培い、修了を迎えることができました。これは、指導教員である細越寛樹先生をはじめとして、ご指導、ご鞭撻を賜りました先生方、研鑽し合った仲間、あたたかく見守り支え続けてくれた家族など、多くの方々のおかげであると感じております。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

周囲に目を向けてみると、前述した精神的健康の問題のほかにも、社会には様々な課題が山積しています。今後も、こうした課題の解決に少しでも貢献できるよう、本学で学んだことを活かし、精進していく所存です。

博修士会からのお願い

郵便振替 00900-2-68733 関西大学博修士会

特別協力金のご協力をいただきました会員の皆様にお礼申し上げます。会の財政が逼迫しておりますので、本年度も引き続きご協力をお願いいたします。1口1,000円、できれば2口以上お願いいたします。また、終身会費15,000円を未納の方は、納入をお願いいたします。

特別協力金納入者名簿 (五十音順、敬称略) (2022年4月1日~2023年3月31日)

明 田 佳 久	天 井 一 夫	今 村 隆	岩 井 治 夫	大 倉 俊
大 森 一 成	岡 照 二	緒 方 正 則	小 田 廣 和	小 幡 齊
北 嶋 弘 一	北 村 英 子	木 下 雅 信	五 藤 勝 三	竿 田 嗣 夫
佐々木 保 幸	笹 倉 淳 史	鹿 田 幸 治	篠 塚 義 弘	芝 井 敬 司
竹 中 敏 治	田 鍋 耕 三	椿 信 二	豊 永 彰	中 原 住 雄
西 座 新 二	羽 間 弘	橋 寺 知 子	濱 田 晃 之	飛 田 篤
平 野 裕	藤 井 昭 三	松 田 充 弘	松 本 始	真 部 和 義
宮 崎 亮 太	明 神 信 夫	村 中 徳 明	山 内 紀 嗣	山 本 秀 樹
山 元 哲 朗	横 田 伸 敬	若 林 優 哉		

大学院ニュース

Graduate School News



関西大学における 豊富な産学連携・地域連携と連動させた 「考動力」人材育成プロジェクト

副学長(環境都市工学部) 研究推進・社会連携部長 **山本 秀樹**

本学では、2021年度から国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の助成を受け、「豊富な産学連携・地域連携と連動させた『考動力』人材育成プロジェクト」を実施しています。

本プロジェクトでは、高度な知識・技能の修得段階にある博士後期課程学生が、卓越した「考動力」（自ら考え行動する自律力）を発揮し様々な社会課題の解決に貢献できる研究者あるいは高度専門職業人として自立した活動ができるよう、総合的な経済支援（生活費相当額、研究費、国際活動経費等）を行っています。とりわけ、コロナ禍において顕在化したSDGsをはじめとする様々な社会課題に対し、本学が有する産業界・地方自治体等との連携を活かし、多様な学問領域のアプローチから解決策を見出すことができる研究者の育成を図っています。

このような博士人材育成の目的は、「学理と実際との調和」を掲げる本学の「学の実化」という理念に基づいています。社会の中で困難を克服して未来を切り開こうとする強い意志と、多様性を尊重し新たな価値を創造することができる人材を育成するものであり、本方針のもとで、本プロジェクトでは博士後期課程1年次より、次の2つのプログラムを併行させて提供しています。

第1に、文理を超えて提供する産学連携・地域連携プログラムとして、本学の社会連携部や附置研究所が有する研究プロジェクトに加え、連携協定自治体（堺市、吹田市、高槻市等）との新たな連携研究プロジェクト等を順次提供しています。自然科学分野の学生対象では、各研究室が有する連携プロジェクトに加え、本学の「産学官連携センター」、「イノベーション創生センター」等が実施するプログラムを提供しています。

第2に、人文・社会・自然科学分野にわたり博士後期課程の学生採用に実績のある企業やシンクタンクのマネジメント担当者及び連携協定自治体等と協

力して行う専門的キャリアプログラムを実施しています。選抜学生は実務面から挑戦的・融合的な研究の意義を見出し、また博士号取得を前提とした自身の研究をどのように実社会に還元してゆくかを学ぶことができます。

本プロジェクト選抜学生には「次世代博士研究員」の身分を付与し、研究推進部、社会連携部の教職員やURA・産学官連携コーディネーターによる外部資金申請書作成、研究テーマ設定、知財ノウハウ等の多様な人的支援を提供しております。海外大学への派遣、英語論文発表のためのアカデミックライティング指導も行い、研究面の進展に寄与しております。

2022年度は選抜学生20名に対し、学生同士の異分野交流を図るイベント「次世代FUSION」の開催、教育実践能力向上のための「プレFDプログラム」、「海外研究活動に関するセミナー（危機管理事項も含む）」などの各種プログラム、キャリア開発・育成コンテンツ、産学連携によるインターンシップ等を提供しました。

さらにトランスファラブルスキル^(※)を醸成するための支援として、就職活動・インターンシップに向けたセミナーをはじめ、アカデミア内外を問わず、社会的課題解決に向けて未来を切り開くための挑戦的・融合的な研究能力を高めるプログラムも実施しました。

また、選抜学生から日本学術振興会特別研究員に1名、大学教員等に4名採用されるなど、修了後のキャリアパス面でも着実に成果を挙げています。

JSTからの高評価を受け、本学では2023年度以降5名増の25名をプログラム選抜学生として受け入れることになりました。上述の成果を踏まえ、引き続き各種プログラムを展開していきます。

※社会人に求められる能力のうち、特に転用・応用可能で、分野や業態を問わず活用するために必要となる汎用性の高い能力のこと。

先輩から



実学のInput、そしてOutput

加藤 佑紀 (2022 博 理工学研究科)

私は今、日本ペイントホールディングス株式会社に所属し、重機や電車といった大型重車両用塗料の研究開発職に就いています。“研究開発”という職の探求心に駆られ、毎日を楽しんでいることは本当に有難いことです。こうして日々の研究開発職に耽溺している根底には、関西大学での学びがあることは言うまでもありません。この度、この様な貴重な機会をお借りし、研究室生活を簡単に振り返り、どう“今”に繋がっているのか改めて考えたいと思います。

私は2018年に関西大学エネルギー環境工学科(現 エネルギー環境・化学工学科)を卒業し、関西大学大学院理工学研究科環境都市工学専攻に進みました。山本秀樹先生の研究室に所属しHansen溶解度パラメータという物質の表面物性に関する研究に勤めました。山本先生は多種多様な分野の企業や海外大学との共同研究をされており、配属当初から研究の最先端に触れることができました。先生・企業の方々との熱いディスカッションに無我夢中で喰らいつき、「研究とは何か」「報告の仕方」といった研究の基礎から、「コスト」や「研究への投資価値」といった社会/企業での考え方も多く習得できました。研究成果が企業のプラントに実際に活かされた際の喜びは一入であり、今でも鮮明な感動として脳裏に刻まれています。また、修士ではオーストリアのウィーン医科大学へ3度赴き、血液の表面物性に関する研究を行いました。医学という異分野との共同研究は、私の固定概念を打ち砕くとともに、英語での研究発表・ディスカッションの難しさなどの悔しさを味わいました。

研究室での経験により、知識や仮説検証の方法、報告といった基礎部分のInputだけでなく、“社会/企業は何を求め、自分の研究価値は見合っているのか”というOutputする力を会得できた結果、私の研究に対する取り組み方が定着し、視野が広がったのは言うまでもありません。「自ら研究計画を立案し、結果について考察を行い、先生とディスカッションを経て前に進

む」。そういった研究に対する面白さ・奥深さを知ることでもできました。

つまり、関西大学の掲げる理念“実学”を身をもって経験できたと、社会人になった今、改めて実感しています。

日本ペイントホールディングス株式会社に入社し社会人4年目となりますが、研究開発という職は決して平坦ではなく、まさにオフロードです。仮説に反する予期せぬ結果が出ることもあります。その際は、もちろん落胆/苦悩もしますが、絡まった糸を解くように“何故?”を追求する力、そして糸を再び綺麗に結ぶ“価値”があるのかを判断する力は、“実学”の賜物だと思います。そうして、着実に業務を行う中でHansen溶解度パラメータの知識は、当時の上司に重宝していただき、1年目にして全社発表という大役に抜擢頂くこともできました。

“研究”には決まった道筋がありません。だからこそ、楽しさと苦難が乱立しています。研究室時代のしかりとした“実学”のInputとOutputがあるからこそ自分の基礎が整い、“研究開発”という道を突き進んでいるのだと確信しています。

余談ですが、「仕事を楽しいと一番実感する瞬間はいつですか?」と問われると、「休日の移動時間」と答えます。休日に仕事とはアンマッチにも程がある!と思われるかもしれませんが、自分が関わっている塗料が塗装された大型重車両を街で目にする、「今日も元気に頑張ってるな〜」と社会に携わっている/役立っていることを自分の目で感じる事ができるからです。こうして“研究開発”に楽しさを感じ、没頭できているのは関西大学で過ごした研究室生活があってこそであり、ご指導ご鞭撻を承りました山本先生には感謝の念が絶えません。

今後も、山本先生の研究室で学んだ経験のもと、関西大学の名に恥じぬよう、“実学”を通して培った力を目一杯発揮し、挑戦し続けていきます。

総会議案書

(支出の部)

(単位：円)

項目	予算額	執行額	差引差額
1. 一般管理費	240,000	306,959	▲66,959
① 通信費	50,000	210,095	▲160,095
② 事務用消耗品費	80,000	13,587	66,413
③ 支払手数料	30,000	17,495	12,505
④ 雑費	80,000	65,782	14,218
2. 会議費	100,000	74,530	25,470
① 総会費	70,000	60,000	10,000
② 諸会議費	30,000	14,530	15,470
3. 事業費	700,000	543,631	156,369
① 印刷費	650,000	537,231	112,769
② 修士記授与記念写真費	10,000	0	10,000
③ 記念品費	40,000	6,400	33,600
予備支出	30,000	0	30,000
予備費	30,000	0	30,000
当期支出合計	1,070,000	925,120	144,880
次期繰越金	817,091	823,517	▲6,426
合計	1,887,091	1,748,637	138,454

(注) 当期収支差額は、マイナス73,524円

特別会計収支決算書

奨学金特別基金

自 2022年4月1日 至 2023年3月31日

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
前期繰越金	1,205,000	次期繰越金	1,205,012
受取利息	12		
合計	1,205,012	合計	1,205,012

財産目録

2023年3月31日現在

(資産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
普通預金	一般会計収支(りそな/難波)	109,988
振替貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	701,956
通常貯金	一般会計収支(ゆうちょ/大阪事務センター)	11,573
小計		823,517
普通預金	特別会計 奨学金特別基金用(りそな/難波)	1,205,012
合計		2,028,529

(負債及び正味財産の部)

(単位：円)

科目	摘要	金額
正味財産	次期繰越金	2,028,529
合計		2,028,529

監査報告書

関西大学博修士会
会長 北嶋 弘一殿

私たちは、2022年4月1日から2023年3月31日に至る一般会計収支決算書、奨学金特別基金および名簿特別勘定の特別会計収支決算書、ならびに財産目録について監査を実施いたしました。

監査の結果、上記決算書類は、適正なものであることを認めます。

2023年5月27日

監事 竿田 嗣夫 (印)

監事 水野 一郎 (印)

監事 古城 唯史 (印)

〈第3号議案書〉

2023年度 一般会計収支予算(案)

自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

(収入の部)

(単位：円)

項目	予算額	摘要
経常収入	590,050	
1. 会費収入	420,000	
① 正会員入会金収入	60,000	正会員入会見込 15,000円×4人
② 院生会員入会金収入	360,000	院生会員入会見込 12,000円×30人
2. 事業収入	140,000	
① 総会会費収入	120,000	総会出席見込 3,000円×40人
② 広告料収入	20,000	広告掲載見込 10,000円×2件
3. 雑収入等	30,050	
① 雑収入	30,000	お土産料
② 受取利息	50	預金利息等
4. 特別協力金等	400,000	
特別協力金収入	400,000	
前期繰越金	823,517	
合計	1,813,567	

(支出の部)

(単位：円)

項目	予算額	摘要
経常支出	970,000	
1. 一般管理費	300,000	
① 通信費	110,000	総会、役員会案内発送費
② 事務用消耗品費	80,000	文房具、事務用品費
③ 支払手数料	30,000	振込、振替送金手数料
④ 雑費	80,000	
2. 会議費	70,000	
① 総会費	40,000	講演料
② 諸会議費	30,000	役員会会議費等
3. 事業費	600,000	
① 印刷費	550,000	会報、総会案内状印刷費
② 修士記授与記念写真費	10,000	
③ 記念品費	40,000	
予備支出	30,000	
予備費	30,000	
当期支出合計	1,000,000	
次期繰越金	813,567	
合計	1,813,567	

〈第4号議案書〉

そ の 他

2022年度博修士会 創立70周年記念総会・学術講演会

2022年度の博修士会総会・学術講演会は創立70周年記念大会となった。当年度は関西大学の大学昇格100年に当たり、関西大学校友会主催の「関西大学フェスティバル in 関西」の日程にも合わせて10月8日(土)に開催した(関西大学千里山キャンパス、第2学舎2号館C507教室)。本会には芝井敬司理事長、前田裕学長、田中義信校友会会長、藤田高夫副学長、山本秀樹副学長、小谷寛子女子秀麗会会長の方々が来賓として出席いただいた。

総会では物故者に黙とうを捧げ、今回もコロナ禍のもとの開催であり、感染予防とソーシャル・ディスタンスを徹底し、学歌を参加者一同でCD音声にて傾聴した。その後、芝井理事長、前田学長、田中校友会会長からご挨拶を頂戴し、総会の議事に移った。北嶋会長の議事進行のもとで、2021年度事業報告、収支決算報告および次年度予算ならびに役員改選を含む全ての議案が承認された。また、博修士会創立70周年記念事業についても適宜説明され、合意や確認が得られた。

学術講演会は、70周年を記念し芝井理事長と文

学部の米田文孝教授による二部構成とした。芝井理事長には、「大学昇格100年を迎えた関西大学— 本学の学是“学の実化”を現代社会に問う—」を講演していただいた。芝井学長は、当時の山岡順太郎総理事が提唱した「学の実化」(学理と実際の調和)の要諦を提示され、それを今日において具現化し、「これからの関西大学が目指すもの」を説明された。

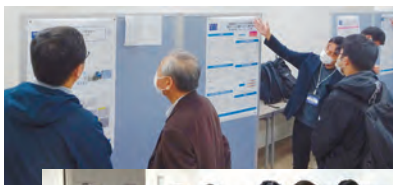
米田先生からは、「高松塚古墳発掘50周年を迎えて」(~壁画と被葬者の迷宮を中心に~)と題する講演をいただいた。米田先生、そして関西大学の擁する豊富な研究蓄積や経験、史料をもとにした、まさに高松塚古墳発掘にまつわる包括的な講演であった。参加者全員が古代ロマンに浸るひとときを味わうことができた。

今回も会員懇親会を開催することができなかった。次期開催では、皆様と和気藹々と懇談できることを祈念しています。(博修士会 広報部)



博修士会創立70周年記念企画 「院生選抜ポスター発表コンクール」

博修士会創立70周年の記念事業として、2022年11月26日(土)に千里山キャンパス尚文館301・302講義室で院生表彰制度の一環である「院生選抜ポスター発表コンクール」を院生協議会と共同開催しました。院生合同学術研究大会を担当する教務事務、企画する院生協議会の協力に加えて、学校法人関西大学並びに大学院教育職員のお力添えにより、無事に開催することができました。博修士会では、大学院生との交流・親睦ネットワークを構築し、院生も参加できる校友会組織を目指しています。発表にチャレンジした院生13名に感謝します。コンクールの模様は臨時会報に掲載しました。



博修士会「会章」の制定

博修士会では、創立70周年を迎えた今、会章を定めることになりました。関西大学校章、ロゴからヒントを得た会章1(フォーマル用)、ふくろう博士をシンボルとした会章2(カジュアル用)を提案し、総会で承認されました。ふくろうの顔は、構成会員すべての愛(ハート)によって成り立っています。永遠のシンボルとして輝き続けることを願っています。会章入りコースターを商品化していますので、ご希望の方はお問い合わせ下さい。



1 フォーマル用



2 カジュアル用

事務局便り

博修士会への連絡をスマホやパソコンから手軽に行えるように、2次元バーコード(QRコード)を作成し、学位記授与式と入学式に会報とともに配付いたしました。ご活用ください。

なお、連絡用2次元バーコードは修了生用と院生用の2種類あります。



(修了生用) <http://u0u1.net/Xeky>



(院生用) <http://urx.red/wskf>

お知らせ!

関西大学博修士会

検索



ホームページも見てください!

www2.kandai-koyukai.com/al/kandai-md/

博修士会会報 2023年号

2023年7月1日 発行

発行人 北嶋 弘一 編集人 篠塚 義弘

発行所 関西大学博修士会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35
関西大学校友会事務局気付